

科目名	特別支援教育方法論（重複・LD等領域）					単位	2.0
担当教員	繁昌 成明						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	3	授業番号	2374

●授業のテーマ

特別支援教育における具体的教育方法論

●到達目標

発達障害の療育と教育との連続性を重視する思考力を持ち、特別支援教育の具体的方法を立案する基礎力を身につける。

●学習内容(授業概要)

特別支援教育は、これまでの特殊教育の枠組みを広げ、LD、ADHD、高機能自閉症等のいわゆる軽度発達障害を含めた教育支援を行なうことになった。すなわち、教育現場において、障害を持つ児童生徒の多様な教育ニーズに対応出来るよう、より個別的な教育支援計画が求められることとなった。また、教育体制も担任教員ひとりが抱え込むのではなく、特別支援教育コーディネーターや校内委員会を設けることにより、校内連携、関係する諸専門機関との連絡や調整等を行なう等、教育支援のあり方は大きく前進することになった。従って、重要となるのは、実際の教育現場における特別支援教育の具体的な教育方法を、個々の発達状況に対応させ、それぞれの教育ニーズに合わせた教育実践を行なえるような方法論へと発展・充実させるということである。それは、支援者としての教員が十分な教育能力を獲得し、様々な発達障害を持つ子ども達のニーズに対応した教育実践を行なうということである。本講義では、心理療育を実践している立場から、これまで積み重ねてきた治療教育（療育）の方法論を基礎にして、「教育も療育も」視点に立って、特別支援教育方法論を具体的に学んでいく。

●学習内容(授業計画)

1. 発達障害の治療・教育（療育）について
2. 特別支援教育と療育との連携
3. 特別支援教育コーディネーターについて
4. 個別支援教育における発達状況把握の重要性について
5. 特別支援教育方法論：個々の教育支援ニーズをつかむ方法論
6. 重複障害教育の方法論
7. LD等障害教育の方法論
8. 視覚障害教育の方法論
9. 聴覚障害教育の方法論
10. 知的障害教育の方法論
11. 肢体不自由教育の方法論
12. 病・虚弱教育の方法論
13. 具体的な教育方法論の概要 ①遊戯療法
14. 具体的な教育方法論の概要 ②行動療法
15. 具体的な教育方法論の概要 ③言語訓練

●準備学習・事後学習の内容

準備：毎回の授業ごとに、関心のある事項について下調べをすること。

事後：毎回の授業で学習したキーワードを書き出しておく。

●成績評価方法・基準

発表・討論 60%、レポート 40%

●テキスト（必携）

特に使用しない

●参考文献／その他

随時資料頒布

●履修上の注意

自発性と共に学び合う意識を持つこと。